

佛教學七三十一

第 76 号

和辻博士の縁起説理解を問う……………小谷信千代…1
—釈尊の輪廻説と縁起説—

アビダルマの諸門分別—内外門……………宮下晴輝…20

* * * * *

仏教学との出逢い……………吉元信行…44

* * * * *

学会彙報……………57

* * * * *

śyāmā—夜と乙女……………村上昌孝…1

2002年10月

大谷大學佛教學會

佛 教 学 セ ミ ナ ー
第 74 号

仏教に触れる道……………一 郷 正 道… 1
icchāntika (一闍堤) の意味と lābha-satkāra ……………袴 谷 憲 昭…20

書 評 ・ 紹 介

小谷信千代著『法と行の思想としての仏教』……………佐々木 閑…35

Paul J. Griffiths, *RELIGIOUS READING*

—*The Place of Reading in The Practice*

of Religion—……………ジョアキン・モンテイロ…43

Padmanabh S. Jaini,

Subodhālaṅkāra, Porāṇa-ṭīkā (Mahāsāmi-ṭīkā) by Saṅgharakkhita

Mahāsāmi, Abhinava-ṭīkā (Nissaya) (anonymous)……………茨 田 通 俊…53

学 会 彙 報……………58

Chinese texts on the Tibetan king Glang Dar ma ……………今 枝 由 郎…26

セラージェツウンパ

『現観莊嚴論八句義七十義決訳』和訳(2)……………兵 藤 一 夫… 1

¥ 1000 (税別) 〒 50

佛 教 学 セ ミ ナ ー
第 75 号

弥勒論書における「虚妄分別」の起源について……………荒 牧 典 俊… 1

仏教学の進展と今後の展望……………舟 橋 尚 哉…29

—人生六十年の思い出を語る—

刹那滅の哲学……………谷 貞 志…38

書 評 ・ 紹 介

西村実則著『アビダルマ教学 俱舎論の煩惱論』……………吉 元 信 行…71

学 会 彙 報……………78

『入菩提行論』における「空性の修習の勸奨」……………櫻 井 智 浩… 1

—敦煌出土初期本から現行本への展開—

¥ 1000 (税別) 〒 50

60名ほど。

◇修士論文中間発表会

十月二十四日（木）午後四時十分より

於 尋源講堂

発表者、15名。

編集後記

本学へ一年次から仏教学専攻生として入学する学生の数は、小生の学生時代と比べ隔世の感がある。以前はその学生の大半は寺院出身者であったが、今はその逆である。入試制度の変革もあり、その入学動機が何であれ、仏教専攻入学生が格段と増加した現実には、社会からの仏教への関心の高まりとともに、まずは喜ばしいことと受けとめたい。

しかし、逆に、これらに仏教の何を、如何に学んでもらうかとなると現場の苦悩は、やはり隔世の感があるのではなからうか。碩学の講義を一言半句洩らすまいと教室がシーンと静まりかえり、その走らせる鉛筆の音だけが聞えてくる、といった教室光景は、今や全く夢物語である。それは、教授たるものの権威失墜の

象徴的現象かもしれない。

時代が変わろうと学生数の増減があるうと、各種言語を駆使して仏教文献に直接向かい、仏教の真理を探索しようとする方法、目的に変化があつてはならない、と愚考する。文献学あるいは実地踏査によつて解明される仏教の真理に自ら頭が下がつていく、ということではなければならぬと思う。それによつてこそ社会へ訴える力もでてこよう。本学の仏教学は、信心確立のための道場、あるいは客観的仏教知識を教授する教室だけを旨とするのであつてはならない。この基本姿勢に私自身揺るぎはないものの、仏教学専攻の学生の多くに接するときその苦衷は禁じ得ない。が、学生数が多いからといって、仏教の精神性に触れて卒業してくればそれでもよいというので安住するのではなく、仏教への知的関心を引き起こす努力をもつとする必要があるのではなからうか。それが、案外、これらの仏教への興味、期待に火をつけることになるのではなからうか。

それは、具体的には、仏教基礎学の習

得である。「仏教基礎学」については、

本誌第七〇号、樓部建「大谷大学の俱舎学の伝統について」参照。「仏教の教理を学び始めようとする人々のための入門の学、基礎の学、としてのそれである。すべての学生が、入学してまず第一に俱舎の手ほどきを受けることによつて、仏教の思想の学びに入ることになつてい」(上掲論文四一頁上)これは暗記も必要とし苦手な学生も多からうし、日常語でない仏教用語への拒否反応も生じるであらう。しかし、それは、仏教大学だからこそ学べることであり、それを噛み砕いて教えるところに教師側の努力が問われることにもなる。それが、本学仏教学の伝統、歴史であつたのではなからうか。それは初心者にも有益だし、将来研究の道を歩む者には必須のことでもあるう。

本号三篇の論文、講演録は、偶然、いずれも本学で俱舎を身につけた学者の手になる。本学の伝統、歴史が息衝いている。

小谷論文は、十二支縁起説理解に時間

的概念の導入が必要であることをあらためて指摘する。宮下論文は、正に俱舎の範疇論について新資料にもとづく考察である。吉元学科主任の新入生歓迎の講演録も、社会との接点に本学での俱舎の学びが基になっていることを示す。本学で長年サンスクリットを指導して下さっている村上先生からは、言語学的分析にもとづく、文学作品鑑賞の視点を教示していただいた。

(M・I記)

佛教学セミナー

第76号

2002年10月20日 印刷

定価:本体1,000円(税別)

2002年11月30日 発行

編集
発行

大谷大学佛教学会

発行者 木村宣彰

603-8143 京都市北区小山上総町22

振替 01040-3-25303

印刷

中村印刷株式会社

発売所

文栄堂書店

604-8091 京都市中京区寺町通三条上ル

振替 01080-4-2948番

電話 075(231)4712番

執筆者紹介

小谷 信千代

大谷大学教授 文博

宮 下 晴 輝

大谷大学教授

村 上 昌 孝

大谷大学非常勤講師

吉 元 信 行

大谷大学教授

※リポジトリ非公開

※リポジトリ非公開

※リポジトリ非公開

※リポジトリ非公開

BUDDHIST SEMINAR

CONTENTS

Is Watsuji Tetsuro's Interpretation of Dependent Origination Correct?	ODANI Nobuchiyo	1
* * * * *		
Analysis of Dharmas in the Abhidharma : The Category of the Inner and Outer	MIYASHITA Seiki	20
* * * * *		
An Encounter with Buddhist Studies	YOSHIMOTO Shingyo	44
* * * * *		
Reports		57
* * * * *		
śyāmā—The Evening and the Maiden—	MURAKAMI Masataka	1

PUBLISHED BY
THE SOCIETY OF BUDDHIST STUDIES
OTANI UNIVERSITY
KYOTO JAPAN